

善照寺
寺報

ぜんしゅうじ

第10号

〒272-0131

市川市湊十八番二十号 善照寺
電話 四七(三五七)二二三二
FAX 〇四七(三九七)一三三二

太陽光発電システムが完成

善照寺住職 今岡達雄

私たちの生活はエネルギーを消費することによって成り立っています。私が子供の頃は、本堂には電灯が有りませんでしたし、寺の住居部分にも1部屋に電灯が一つ、コンセントの数も限られていました。今から考えると日が暮れてしまうと薄暗い部屋の中で暮らしていたものです。当時は自動車もあまり普及していませんでしたので、石油や原子力のようなエネルギーの消費も少なかったのです。

しかし、生活のための便利な道具がもたらされるたびにエネルギーの消費は増加し、排気ガスによる大気汚染のような直接

的な健康被害ばかりでなく、石油が燃えて発生する二酸化炭素のように温室効果をもたらし、温暖化のような地球規模の環境破壊をもたらしました。

このため、国連では地球温暖化を避けるために、温室効果ガスの排出を削減するためお話し合いを行い、一九九七年京都で国際的な条約「気候変動枠組条約京都議定書」を作成しました。日本はこの条約で西暦二

八年の温室効果ガス排出量を一九九一年排出量の九十四%にすると約束しました。ところが二一年の排出量は一九九一年よりも六・六%増加していま

す。つまり石油・石炭・天然ガスなどの化石エネルギーの消費が増加しており、二酸化炭素排出の削減が進んでいないどころか益々悪化しているのです。

そこで、善照寺では二酸化炭素排出削減に協力するために、太陽光発電設備を導入することを計画しました。太陽エネルギーを利用し、石油や天然ガスの消費を抑えることが地球を守ることになるからです。太陽光発電設備は温室効果ガスを削減するという国策にそった設備で



慧日会館屋上に設置された太陽電池パネル最大で10kWの発電能力があります。

すから、設置にあたって国からの補助金を受けることができました。実際には太陽光発電設備導入には約一千万円の費用がかかりましたが、独立行政法人「新エネルギー・産業技術開発機構(NEDO)」から約五百万円の補助金が受けられました。

ここで発電した電力は善照寺で使いますが、余った電力は電力会社に売ることが出来ます。真夏の日差しが強いときには冷房用電力が多量に必要になります。太陽光発電はそんな時に大量発電が可能な勝れた発電方法です。夜間や雨天には今まで通り電力会社から電気を買うことになりませんが電気代は大幅に節約できることになっていしょう。



住職法話

お彼岸は修行の期間

彼岸とは「向こう岸」という意味です。私たちが毎日暮らしている現実の世界と悟りの世界を川の兩岸にたとえ、現実の世界を此岸（こちら側の岸）、悟りの世界を彼岸（向こう側の岸）としました。そして、此岸から彼岸に渡ることを到彼岸（向こう岸に渡る）と呼びました。つまり向こう岸に渡るための修行が到彼岸です。これを昔のインドのことはでパーラミターといい、中国人は波羅蜜多と音訳しました。

向こう岸に渡るためには「六波羅蜜」という六種類の修行が必要です。布施、持戒、忍辱、精進、禅定、智慧の六つです。瀬戸内寂聴さんはこれを六枚の切符にたとえています。極楽浄土に渡るための六枚の切

符で、一枚欠けても渡ることが出来ません。一つ一つ修行をして切符を手に入れ極楽浄土に渡るので。

一枚目の切符が「布施」です。布施とは僧侶に対する報酬のように受け取られています。が、本当の意味は「惜しみなく与えること」です。お金や物を施すのは財施、人に親切にするのが心施、お金や財産がなくなってもいつでもにこやかに人に接することは出来ます、これが和顔施です。二枚目の切符が「持戒」です。持戒とは「してはならない事はしない」ということです。たとえば基本的にしてはならないことには不殺生（殺さない）、不偷盗（盗まない）、不邪淫（淫らなことをしない）、不妄語（ウソをつかない）、不飲酒（酒や麻薬などをたしなまない）の五戒があります。戒を守った生活をする二枚目の切符を手に入れることが出来ます。三枚目は「忍辱」で

す。忍辱とは「なにごとにも耐えること」です。苦しいことにも、辛いことにも、退屈なことにも、何事にも忍耐は大事であり耐えることが出来たとき三枚目の切符を手に入れることが出来ます。

四枚目の切符は「精進」です。精進とは「たゆまず努力すること」です。それぞれの立場で自分の仕事や役割に、文句を言わずに日々努力をすることです。偉くなるためとか、金儲けをするためではなく、ただ黙々と努力を重ねること、これが精進です。五枚目の切符は「禅定」です。禅定とは「心を静める」ということです。人の心の中では煩惱の火が燃えさかっています。怨みやつらみ、嫉妬や怒りの炎が燃えさかっているのです。このような心の炎を鎮めることが禅定です。最後の六枚目の切符は「智慧」です。智慧とは「物事を正しく見つめること」です。つまり正しい判断力を身につけ

ることですが、正しいとは欲にまみれた人間の評価ではなく、仏の心による評価ということですから。六枚目の切符を手にするとき、もはや欲にまみれた人間ではなく仏になつていくのです。

さて、この六波羅蜜ですが皆さんはお出来になると思いますか。善良な方々には可能かも知れませんが、私自身には完成する自信はありません。浄土宗をお開きになつた法然上人は、そんな私たちに極楽浄土に渡るも一つの方法を教えて下さいました。六波羅蜜は自分自身の力で仏になり極楽浄土に渡る「自力」の修行方法ですが、法然上人が教えてくれた方法は阿弥陀仏の力によつて極楽浄土に渡してもらおう「他力」の修行なのです。それが「念仏」です。阿弥陀仏による救済を信じ、声に出して仏の名を呼ぶことによつて私たちは極楽浄土に行くことが出来るのです。それが阿弥陀仏の布施行だからです。



アリとキリギリス

法然上人のおことば

「明日の大切な用事を、遅れな
いようにと、今日はげんでやっ
ておく。念仏もそのようにしな
さい」

（『つねに仰せられける御詞』
より）

働き者のアリと、遊び人のキ
リギリス。有名なイソップ寓話
です。

暑い盛りもいっしょうけんめ
い働いたアリは、厳しい冬が来
てもたくわえて生活していけま
した。ところが涼しいところで
音楽ばかりやって夏を過ごした
キリギリスは、冬が来ると餓え
てしまったというお話です。

人生にも冬がやってきます。

人生の冬へのそなえということ
になると、私たちはみなキリギ
リスです。

「おいアリさんよ。そんなに念
仏ばかりして、どうする。ムダ

だ、ムダ。もっと現実をみる。
この現実世界の中で完全燃焼し
なかつたら、いったい何のため
の人生だい？ おまえのような
怠け者はこまる。俺みたいのを
こそ、人生を謳歌する者という
んだ」

キリギリスの歌
は、この世に響きわ
たっています。キリ
ギリス賛歌のやまな
いこの世の中で、ア
リの持つ真の価値に
気づくことは、まま
なりません。私たち
は、自分こそ働き者
のアリと勘違いして
いるが、ほんとうは
人生の冬を知らない
キリギリスです。



アリは、やがて冬が来ること
を知っています。冬が来ること
を知っていると、キリギリスの
歌はなんとむなしく聞こえるこ
とでしょう。アリはキリギリス

仏さまからの手紙

を説得しますが、キリギリスは
聞く耳を持ちません。むなし
い狂想曲を奏で続けます。

いよいよ冬景色が広がって
くと、キリギリスは無常の寒風
に刺すような痛みを覚えます。

若き日にはいろいろと恵まれ
ていたのです。だから人生を謳
歌していられました。それらの
恵みはいまや消えうせ、いかに
そのおかげで生かされてきたか
を痛感します。

私はまだ若いですから、キリ
ギリスのように歌をうたって、
楽しく生きていくところです。
人生の冬のきびしさを知りませ
ん。たまにそのきびしさに触れ
ても、すぐに歌が忘れさせてし
まいます。だから、すばらしき
アリさんに出会いたいと思うの
です。

「おいアリさんよ。おまえはた
しか、青春の若き日から念仏ば
かりしていたっけな。俺はこの
無常の風が痛い。おまえは昔か
ら、この風がいつか来ることを

知っていたのだな。おまえは
いったい、念仏して何を手に入
れたんだ？ 教えてくれ」

寒さにおびえるキリギリス
は、たくわえのあるアリにすが
りつくしかありません。イソッ
プ寓話のアリは、キリギリスを
見捨てたでしょうか、たくわえ
を分けてやったでしょうか。国
によつていろいろな伝承がある
そうです。アリはキリギリスを
念仏の門に導き入れたと、私は
思います。キリギリスは狂想曲
をやめ、楽器をうち捨てて、人
生の冬を越えようと念仏にはげ
みます。

念仏のたくわえは、人から人
に分けてやることはできないで
しょう。自ら念仏して、手に入
れなければいけないのです。

（副住職）



お寺との付き合い

お寺との付き合いで檀信徒の皆様が一番気を遣うのがお布施の金額でしょう。今回は葬儀の布施についてお話ししましょう。

お布施の基本は寺院の護持

お布施とは僧侶の読経に対する報酬のように考えられていますが、本当は本尊や寺院を護持するための布施です。労働に対する対価ではありませんから金額の決まりもありません。出来る人が出来るだけ布施するのが基本中の基本です。でも、出来るだけとはどの程度なのかが問題なのでしょう。

それでは寺院を護持するためにはどの位のお金が必要なのでしょう。必要な費用は寺院の規模によります。檀家さん三百軒程度の寺院ですと、まず住職家族のためにサラリーマン世帯の平均年収程度、寺の運営費維

持費に同程度の金額、そして大規模修理への積み立て（建物の減価償却）に同程度の金額が必要で。つまり、一般的な寺院の護持にはサラリーマン世帯の平均年収の3倍程度の収入が必要になります。一方、寺院収入は葬儀、法事、年中行事の付け届けによる収入になります。それぞれ三分の一ずつが理想的です。つまり、葬儀による収入はサラリーマン世帯の平均年収程度必要になります。

お布施の目安は年収に依る

ところで年間葬儀件数は檀家数の5%平均です。年によって変動しますが檀家数三百軒では少なく見積もって年十二件、平均的には十五件になります。葬儀の時に皆様各々の世帯年収の十二分の一を布施されると、年十二件の葬儀で寺院収入は檀家さんの平均年収なみになります。ですから、皆様からいくらず包めばよいのでしょうかとたず

ねられたとき、年収の十二分の一で考えて下さいと申し上げているのです。善照寺では戒名を寺から授けております。亡くなった方と寺との生前の付き合い方、亡くなった方の人柄を考慮して戒名をお贈りしています。その戒名で了解いただければ戒名料などというものは必要ありません。お布施だけで結構です。

（財）日本消費者協会「葬儀についてのアンケート調査」平成十五年九月によれば全国平均の葬儀費用は総額で二百四十万円、うち葬儀一式が百五十万円、飲食代が四十万円、寺院への布施が五十万円でした。また、平成十四年度「家計調査年報」によれば勤労者世帯（平均世帯人員三・五人、世帯主平均年齢四十六歳）平均年収は一世帯当たり約六百四十六万円です。年収の十二分の一は約五十四万円になります。この値は葬儀についてのアンケート調査の費用とも大体一致するのです。

編集後記

先日、デイズニールランドに行ってきました。この辺からデイズニールランドは近いので、檀家の皆様も足を運ばれたことがあるのではないのでしょうか。私の友人は一年中使用できるチケットを購入し、近所の公園に出かけるような感覚で出かけて行きます。さて、我が家にとっては久しぶりのデイズニールランド。前からチケットを用意して指折り楽しみにしていました。いざ門をくぐるとそこは夢の世界。大人も童心に帰るとはこのことかと実感しました。このデイズニールランドを宗教的な視点で分析した『デイズニールランドという聖地』（能登路雅子著・岩波新書）という興味深い本があります。デイズニールランドが宗教だなんてびっくりしますが、我が家もデイズニールランドという聖地をめざしてやってきた巡礼者だったのかもかもしれないという心境でした。

（副住職室 久美英）